



農業っていいよね！



溝江 友貴 (36歳)

24歳から本格的にリンゴ生産の道へ。同年代の仲間たちと飛馬ブランドに磨きを掛けるのが最高に楽しい。

相馬地区の若い世代が一丸となって農業を盛り上げていることはとても誇りに思うよ。どこにも負けない団結力と仲の良さがそこにはあるからね。ともに頑張る仲間達と意見を交わすことで、より深い絆が生まれることから「飲みにケーション」は私たち若手にとって必要不可欠さ。「良い話も2次会から」というくらい大事だ。

なにが言いたいかって？ 農業は最高ってことだよ！大切な家族や仲間の時間が素晴らしい程に手に入る。農業を通して楽しい行事にも参加できる機会が多く、しっかり仕事さえすれば時間は自由自在なのだから。そして、頑張れば頑張った分、評価として表れ、お金とともに実感を掴むことが出来るのも魅力だ！



あなたも始めませんか？

三浦 剛 (28歳)

私が目指す道。それは父を超えるリンゴ生産者だと24歳の時に気付く。「父の力になりたい」という思いが一つのきっかけだ。そして、もう一つ。それは楽しそうにリンゴ栽培に取り組む、同級生らの笑顔だった。若手のみんなが一丸となって、楽しそうにリンゴ作りをしている。自分も早く輪に混ざりたい。そんな思いから自然とヤル気が沸いたことを嬉しく感じる。同級生のみならず先輩方にも恵まれ、自分では分からないことを教えてくれる沢山の人が周りにはいることは本当に幸せだ。また、高品質リンゴ生産に挑む中で直面する病害虫については、勉強をすることで自分の知識として役立つことから、学ぶことが非常に楽しいと感じる今日この頃。「やればなんとかなる。」強い信念をもって君もリンゴづくりを始めよう！





佐久間 康幸 (38歳)

神奈川県出身で、農業は未知の世界だった私。大学時代に妻との出会いがきっかけでリンゴもぎを手伝い、岩木山を眺めながらリンゴを丸かじりするのが最高だった。あの日のことは今でも鮮明に覚えている。自然に触れ合う楽しさは格別だ。

やがて、25歳の時に本格的にリンゴの道を歩むことを決意。それは、自然との共存。リンゴは生き物であり、毎年自分自身の栽培管理に課題ができるものの改善することで高品質生産に結び付くことから、やりがいであり生きがいである。後継者の第一線を走る我々にとって、農業を始める方々に伝えたい。明るい農業に飛び込むなら、今すぐに走り出せ！そして、とにかく続けなさい。右も左も分からなくても、俺たちがいる！ともに頑張ろう！



煌く若手後継者

福島 秀幸 (31歳)

26歳の頃から、この道に足を踏み入れた。相馬地区に移住してから、若手後継者が集う青年部に揉まれ現在に至る。相馬の人は本当に温かい人ばかりで、飲み会などを通していつも皆で集まり意見交換をしている。沢山の方々と接し、人を憶え、リンゴ栽培での失敗も話し合いながらプラスに繋げいく環境は最高の場である。困ったときに頼れるJAがあることは基より、青年部や基幹青年の仲間たちが心の支えである。

リンゴは手を掛ければ掛けるほど結果として目に見える。赤く輝くリンゴが美しい。それは、努力の結晶。良い出来秋を迎えられた実感が心の底から湧き上がる喜びは格別だ。農業を始める君に云いたい。「振り返るな！行くしかねえ！」

